

セミナーの概要報告

セミナー名：令和4年度 医療技術等国際展開推進事業 中国における病診連携促進のための研修事業、特別企画：高齢とリハビリテーション

日時：2023年2月17日 9:30-11:30

場所：国立国際医療研究センター（NCGM）研修棟 4階セミナー室2

参加者：15名（セミナー室2）、7,764名（中国へオンライン配信聴講者数）

発表者（1）：藤谷 順子，医師，医学博士 NCGM リハビリテーション科科長

発表者（2）：包江波、中国復旦大学上海医学院・護理学院

言語：日本語、中国語の逐次通訳

概要：

NCGMが2023年2月15日、16日に東京大学で実施した「高齢者向け総合医療・看護支援システム・データベース構築に向けた日中合同セミナー」の機会を用い、高齢者向け総合医療・看護支援の具体例として「嚥下機能」に焦点を当て、中国の専門家に対して、日本の医療技術の紹介を行った。

講師の藤谷順子先生は、「日本の嚥下障害に対する取り組み」～高齢者向け総合医療・看護支援の立場から～を発表し、医療や福祉で嚥下造影や内視鏡を利用して嚥下機能の評価・治療を行う日本の仕組みを紹介した。

https://www.hosp.ncgm.go.jp/icc/020/025/PDF/20230410_01.pdf（発表スライド）

また、具体的な日本の嚥下に関する製品紹介（①非侵襲的評価法：AIを利用した頸部聴診システム、②治療方法：末梢磁気刺激、③病態解明・シミュレーション技術：4次元嚥下シミュレーター）と①②は実際にデモンストレーションを行った。

中国側は中国復旦大学上海医学院・護理学院書記・教授包江波先生より「中国における高齢者リハビリテーション看護の新展開」を発表し、藤谷先生との質疑応答を行った。

https://www.hosp.ncgm.go.jp/icc/020/025/PDF/20230410_02.pdf（質疑応答）

今回のセミナーは、中国側へオンラインで配信を行い、聴講者数は7,764名であった。



セミナー室での参加者



①非侵襲的評価法 GOKURI



②磁気刺激装置パスリーダー